歴史的仮名遣いのルール

れきしてきかなづかい ／ 小学校高学年向け

1　まずは、文字のちがいを見つけよう

昔の本などで使われる、かなの書き方を「歴史的仮名遣い」といいます。
このプリントでは、古文の言葉を今のかなの書き方に直す練習をします。

①　言葉の途中・最後の「は行」を直す

昔の書き方	今の書き方	言葉の例
は・ひ・ふ・へ・ほ	わ・い・う・え・お	あはれ → あわれ
例：ひ／ふ	い／う	こひ → こい ／ とふ → とう
例：へ／ほ	え／お	まへ → まえ ／ かほ → かお

※言葉のはじめの「は行」は、そのままが基本です（はな → はな）。

②　「ぢ・づ」を「じ・ず」に直す

昔の書き方	今の書き方	言葉の例
ぢ → じ	づ → ず	はぢ → はじ ／ みづ → みず

※「はなぢ」「つづく」など、今も「ぢ・づ」を使う言葉は別です。

③　「ゐ・ゑ・を」を「い・え・お」に直す

昔の書き方	今の書き方	言葉の例
ゐ → い	ゑ → え ／ を → お	ゐる → いる ／ こゑ → こえ
例：をかし	おかし	意味：趣がある・おもしろい

④　「くわ・ぐわ」を「か・が」に直す

昔の書き方	今の書き方	言葉の例
くわ → か	ぐわ → が	くわじ → かじ ／ ぐわか → がか

歴史的仮名遣いのルール

れきしてきかなづかい ／ 小学校高学年向け

2　音のまとまりと、文の終わりに注目しよう

⑤〜⑦は、長くのばして読む音の変化です。
「か・た・や」はア段、「き・し」はイ段、「け・て・せ」は工段です。

⑤　ア段の音 ＋「う」 → オ段の音 ＋「う」

音の例①	音の例②	音の例③
かう → こう	たう → とう	やう → よう
まうす → もうす	ありがたう → ありがとう	やうす → ようす

「あふぎ」は、まず「ふ → う」、次に「あう → おう」と直します。
あふぎ → あうぎ → おうぎ（扇）

⑥　イ段の音 ＋「う」 →「ゆう・ゅう」

音の例／言葉の例	音の例／言葉の例	ここに注目
いう → ゆう	きう → きゅう	しう → しゅう
あやしう → あやしゅう	きう → きゅう（九）	「ゅ」は小さく書く

※「言ふ」は「いう」と書きます。「ゆう」には直しません。

⑦　エ段の音 ＋「う・ふ」 →「よう・ょう」

音の例／言葉の例	音の例／言葉の例	音の例／言葉の例
けう → きょう	てふ → ちょう	せう → しょう
けふ → けう → きょう	てふてふ → ちょうちょう	せうねん → しょうねん

⑧　助動詞・助詞の「む」を「ん」に直す

申さむ → 申さん ／ あらむ → あらん ／ なむ（助詞）→ なん
※「読む」「寒い」の「む」は変えません。文法の形として覚えましょう。

歴史的仮名遣いのルール

れきしてきかなづかい ／ 小学校高学年向け

３　直す順番と、まちがいやすい所を確認しよう

手順　１文字を直す → まとまりを直す → 答えを確認する

例１　けふ → けう → きょう

①の「ふ → う」のあと、⑦の「けう → きょう」を使います。

例２　てふてふ → てうてう → ちょうちょう

小さい「ょ」も１文字。答えは「ち・ょ・う・ち・ょ・う」の６文字。

注意　ルールを、すべての言葉に当てはめない

- 助詞の「は・へ・を」は、今の書き方でもそのままです。
  例：ぼくは、学校へ行き、本を読む。
- 「あう」があれば、いつも「おう」にするわけではありません。
  例：あふ（会ふ）→ あう ／ かふ（買ふ）→ かう
- 「おほきい」は「おおきい」です。「おうきい」にしません。
- かなの書き方を直すことと、意味を今の言葉に訳すことは別です。
  例：をかし → おかし（書き方）／ 趣がある（意味）

確認　８つのルールを使って、今のかなの書き方に直そう

① あはれ →（　　）　　② みづ →（　　）

③ こゑ →（　　）　　④ くわじ →（　　）

⑤ まうす →（　　）　　⑥ あやしう →（　　）

⑦ けふ →（　　）　　⑧ 申さむ →（　　）

答え

①あわれ　②みず　③こえ　④かじ

⑤もうす　⑥あやしゅう　⑦きょう　⑧申さん

作成：PSIアカデミア。提供画像の学習項目を参考に、説明・例・構成を再編集。
確認資料：静岡県総合教育センター「あすなろ学習室」古典入門１ ほか。